

## 第16回アドバイザー・ボード会合の概要

「アドバイザー・ボード」の第16回会合の日時・出席者・概要等については、以下に示すとおりである。

日 時：2017（平成29）年2月23日（木）13時00分～15時00分

場 所：神戸大学六甲台本館3階大会議室

出席者：

アドバイザー・ボード委員（五十音順、敬称略）

加護野 忠男、北 幸二、佐伯 剛、平松 秀則、保母 拓一朗、吉井 満隆

研究科教員

鈴木一水、南 知恵子、松尾貴巳、高橋 潔、松井建二、栗木 契、末廣英生、松尾博文、松嶋 登

最初に、末廣教授から、従前から行ってきた学部教育の強化を今年度から本格的にシステム化し、初年次セミナー及び経営学特別学修プログラムを導入したことについて説明があった。初年次セミナーについては、経営学を知らない学生に経営学そのものを教えることなく経営学の学び方を理解させることを目的としていることと、その教え方についての説明があった。経営学特別学修プログラムについては、1年次の経営学教育で学んだことを使って経営現象を理解できる基礎的能力を育成することを目的としていることと、プログラムの進め方の特徴について説明があった。

次に、松尾博文 GMAP ディレクターから、KIBER/KIMERA/SESAMI プログラムについて、教育面と研究面の両方について目標を数値化し実施していること、特に KIMERA プログラムについては、今年度からプログラムを開始し、平成28年10月から5名の第一期生が参加しており、1年間の交換留学を経て平成29年度より秋入学して1年半で修了する予定であることの報告があった。併せて、今後の課題として、神戸大学経営における国際的な共同研究の推進と研究のグローバルな発信の増大、卓越大学院構想、SESAMI 予算の安定化について説明があった。

続いて、栗木現代経営学専攻長から、2016（平成28）年度の神戸大学 MBA の新たな取り組みについて説明があった。主な内容は、新しい神戸大学 MBA プログラムの再設計、先導的経営人材養成機能強化促進事業（文部科学省）の受託、地方創生カレッジ事業（内閣府）の受託についての説明があった。

最後に、鈴木研究科長から、「神戸大学大学院経営学研究科の直面する課題」と題して、説明があった。課題として、ポイント制導入によるヒトの制約、予算削減や非常勤講師予算の既定経費化によるカネの制約の説明があり、その対応策として、寄附金や受託事業の実施等による外部資金の調達のほか、非常勤講師数の削減や授業科目の削減等による教育

体制の見直しなどを、経営学研究科全体として今後さらに検討していくことを説明した。

これらの報告の後、経営学研究科が取り組んでいる内容に関して、アドバイザリー・ボード委員からアドバイスやコメント、さらには出席者による活発な意見交換が行われた。